

道徳科における授業づくりのポイント

1 道徳科におけるねらい1について

道徳科のねらい1は、二つの観点から書きます。一つは、内容（内容項目を焦点化し、具体化したもの）です。二つは、道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度）です。

○ねらい1の作り方の例

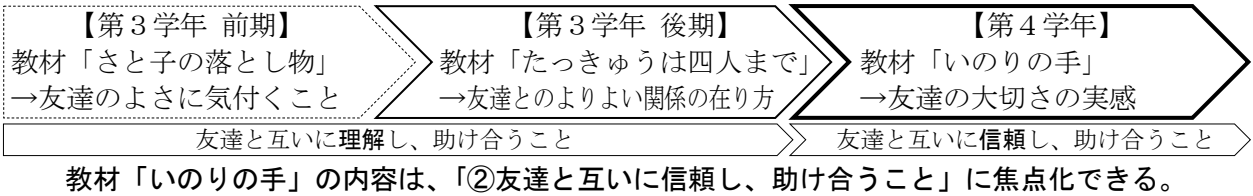
ねらい1 ～とは（には）、～（内容項目）であるとわかり、～（道徳性の諸様相の一つ）を育てる。

【第4学年 主題「しんらいし合える友達」、教材「いのりの手」のねらい1の例】

（1）「解説書の内容」と「前主題や次主題とのつながり」から内容を焦点化する

【第3学年及び第4学年】友達と互いに ①理解し、②信頼し、助け合うこと。【小学校学習指導要領 解説 46 ページより】

→「①友達と互いに理解し、助け合うこと」、「②友達と互いに信頼し、助け合うこと」の二つの内容教科書（日本文教出版）を基に、系統性を確認すると…



【焦点化されたねらい】 友達との仲を深めるには、互いに信頼することが大切であるとわかり、友達と助け合おうとする態度を育てる。

（2）「子供の実態把握」と「本主題の教材分析」を併せて、内容を具体化する

【内容】「友達と互いに信頼し、助け合うこと」

【実態】「友達との仲を深めることについて」

- ・ 子供たちの実際の言動の把握。
- ・ 子供たちの考え方や行動を支える背景や根拠の把握。

【教材】「いのりの手」から深められること

- ・ ハンスはデューラーの幸せを願う「思い」をもつ。
- ・ デューラーは、ハンスの思いに応えようとする。

挿絵

「友達と互いに信頼し、助け合うこと」の内容に、学級の実態と教材分析を併せる。

【具体化されたねらい】 友達との仲を深めるには、相手の幸せを願った言動をしている友達の思いに気づき、その思いに応えられる言動をしようとする心をもつことが大切であるとわかり、友達と互いに助け合おうとする態度を育てる。

2 道徳科における指導計画について

道徳科では、「事前」「本時」「事後」の三つで指導計画を考えていきます。

○事前の活動…実態把握を行います。的確な実態把握で子供に問題意識をもたせることができます。

○事後の活動…日常の姿を称賛します。称賛することで、学習内容を意識して生活していこうとする子供の姿につながります。

段階	内容	具体例（第4学年教材「いのりの手」）
事前	①道徳的行為ができた、できなかった経験 ②道徳的行為をされた経験 ③道徳的行為を見たり、聞いたりした経験 ④内容項目に対する考え方 ※言動とその背景にある原因をみていく。 ※本時の内容項目を視点に、プラス面とマイナス面の両面から子供の経験を想起させる。	①友達との仲を深められた、深められなかった経験は？ →「どんな行為？」、「なぜその行為をした？」、「どんな気持ちになった？」 ②友達から仲を深めてもらった経験は？ →「どんな行為？」、「どんな気持ちになった？」 ③友達同士で仲を深めている場面を見たり聞いたりした経験は？ →「どんな行為？」、「見たり、聞いたりしてどんな気持ちになった？」 ④友達との仲を深めるために、大切なことは何？
事後	教師が、子供の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、子供が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるように継続して働きかける。	【友達との仲を深めるために、考えた言動をしようとする子供の姿】 →できた場面や朝・帰りの会での教師や子供からの称賛 →具体的な姿を発信する。 （例）学級通信の記載、教室の背面掲示等。

3 道徳科における一単位時間の学習過程について

道徳科の学習過程では、既存の価値観を基に、自分ごととして問題意識をもちながら、多様な感じ方や考え方と出会う中で、新たな価値観を見だし、これからの自己の生き方についての考えを深めることができる問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の学習過程 → 四つの活用類型（**共感的活用**・批判的活用・感動的活用・範例的活用）を例に。

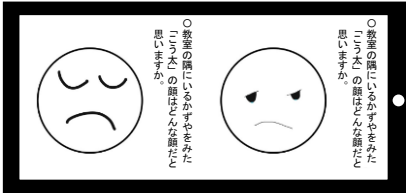
段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICTの活用
導入	<p>1 内容項目に関するこれまでの経験を想起し、本時のめあてを話し合う。</p> <p>学習する前の考え方 実際の言動</p> <p>・～について、できていない。もっと、～できるようになりたい。</p> <p>□□大切な心を考えよう。</p>	<p>○問題意識をもつことができるように、学習者用端末に保存している学習する前の考え方を振り返り、実際の言動と比較する場を設定する。</p>
展開	<p>2 教材を基に、登場人物の心情を共感的に追求し、道徳的価値を明らかにする。</p> <p>(1) 弱さが表れた場面の人物の心情を話し合う。 (例)・～だったんだね、本当にごめんね。 ・もっと、～すればよかった。</p> <p>(2) 中心場面の人物の心情を話し合い、道徳的価値について考える。</p> <p>中心発問 ・～な気持ちだった。</p> <p>道徳的価値が把握されたキーワード等</p> <p>深める発問 ・～な気持ちだった。</p> <p>道徳的価値が深化されたキーワード等</p>	<p>○弱さを見せた場面の人物の心情を考えることができるように、交流の場を設定する。</p> <p>○中心場面の人物の心情を考えることができるように、自他の考えを共有し、交流の場を設定する。</p> <p>深める発問 (例)</p> <p>○条件…「もし～だったら…」</p> <p>○置換…「あなたが～だったら…」</p> <p>○価値…「～とは、どういうこと…」</p>
終末	<p>3 本時を想起し、道徳的価値についての自己の学習を振り返る。</p> <p>学習する前の考え方 学習した後の新たな考え方</p> <p>今までは、～だった。今日の学習で、○○だとわかった。これからは、…していきたい。</p>	<p>○自己の学習のよさを実感することができるように、学習者用端末に保存している学習前の考え方を想起し、本時の学習と比較しながら、自己の学習を振り返る場を設定する。</p>

4 道徳科における ICT の活用について

道徳科では、「前主題までのワークシート」、「学習する前の自分の感じ方、考え方」を学習履歴として蓄積します。そして、これらの学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…学習前までの自分の経験や感じ方、考え方を振り返り、本主題の問題意識をもつことができるようにする。
- 共有機能…自他の考えの共通点や差異点を比べ、自分の感じ方、考え方を見直すことができる。
- 編集機能…図や色カード、吹き出し等を使うことで、よりよい自分の感じ方、考え方を示すことができる。

○ICTの活用の具体例

保存機能	共有機能	編集機能
<p>導入段階で前主題における自分の感じ方、考え方を見返すことで、本主題の問題意識をもつことができるようにする。</p> 	<p>展開段階で自他の感じ方、考え方を比べることで、自分の感じ方、考え方をよりよく見直すことができるようにする。</p> 	<p>展開段階で自分の感じ方、考え方を表出する方法を選択することで、自分の感じ方、考え方を示すことができるようにする。</p> 